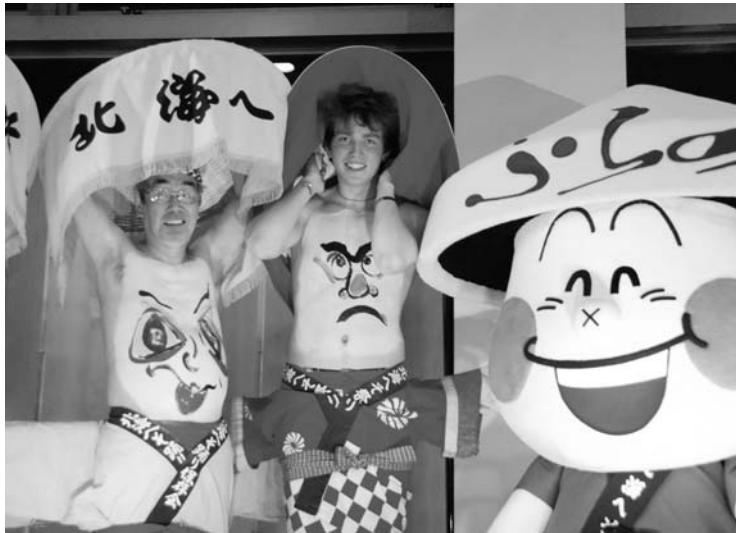


ふらのコミュニティレポート

FURANO COMMUNITY REPORT



▲「文化交流ライブ2012（ふらの観光協会主催）」でへそ踊りを体験する外国人観光客

hokkai hesoodori hozonkai 北海へそ踊り保存会

世界に発信！郷土芸能へそ踊り 見せる踊りから体験する踊りへ



1月22日、富良野スキー場北の峰ターミナル特設会場で、外国人観光客に富良野の文化を楽しんでもらう「文化交流ライブ2012（ふらの観光協会主催）」が行われました。会場いっぱいにつめかけた外国人観光客は、へそ踊りの実演や日本舞踊、書道など日本文化や郷土芸能を堪能。ニュージージランドから訪れへそ踊りを体験した若い男性観光客は、「楽しかった。思い出になる」と満足した様子でした。

「文化交流ライブ」など数多くのイベントやテレビ番組などに出演し、富良野をPRする北海へそ踊り保存会（原田武会長）は、今年で発足34年。年間20回ほどの公演をこなし、一昨年は、上海万博にも出演するなど、海外にもへそのまち富良野をPRしてきています。また、最近ではへそ踊りを披露するだけでなく、凶腹を描いてへそ踊りを体験してもらうなど工夫しています。

原田会長は、「観光客の方々に富良野の感動を持ち帰ってもらいたい。何か思い出や感動が残れば再び来てもらえます。今後

は、観光関係者だけでなく市民レベルでそういう状況をつくっていく必要があるのではないかと思います。小さなまちの郷土芸能ですが、胸を張って世界に紹介していきたいです」と意気込みます。

しかし、他団体にも見られるように会員の高齢化が大きな課題となっており、伝統を継いでいく人材の育成が急務となっています。原田会長は、「勧誘活動が実り、昨年、20代から30代のメンバーが何人か入ってくれました。若い人がある程度まとまったので青年部を作り、若者の自由な発想でへそ踊りをさらに発展させていってほしい」と思っています」と語ってくれました。

